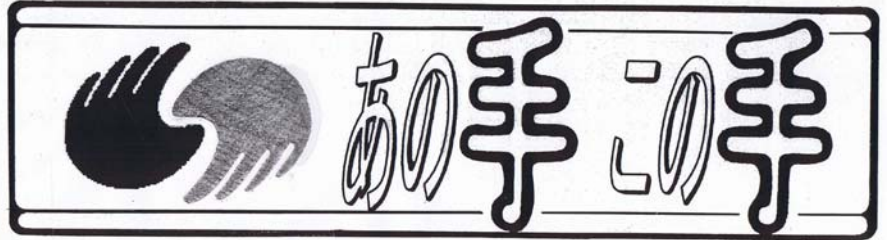


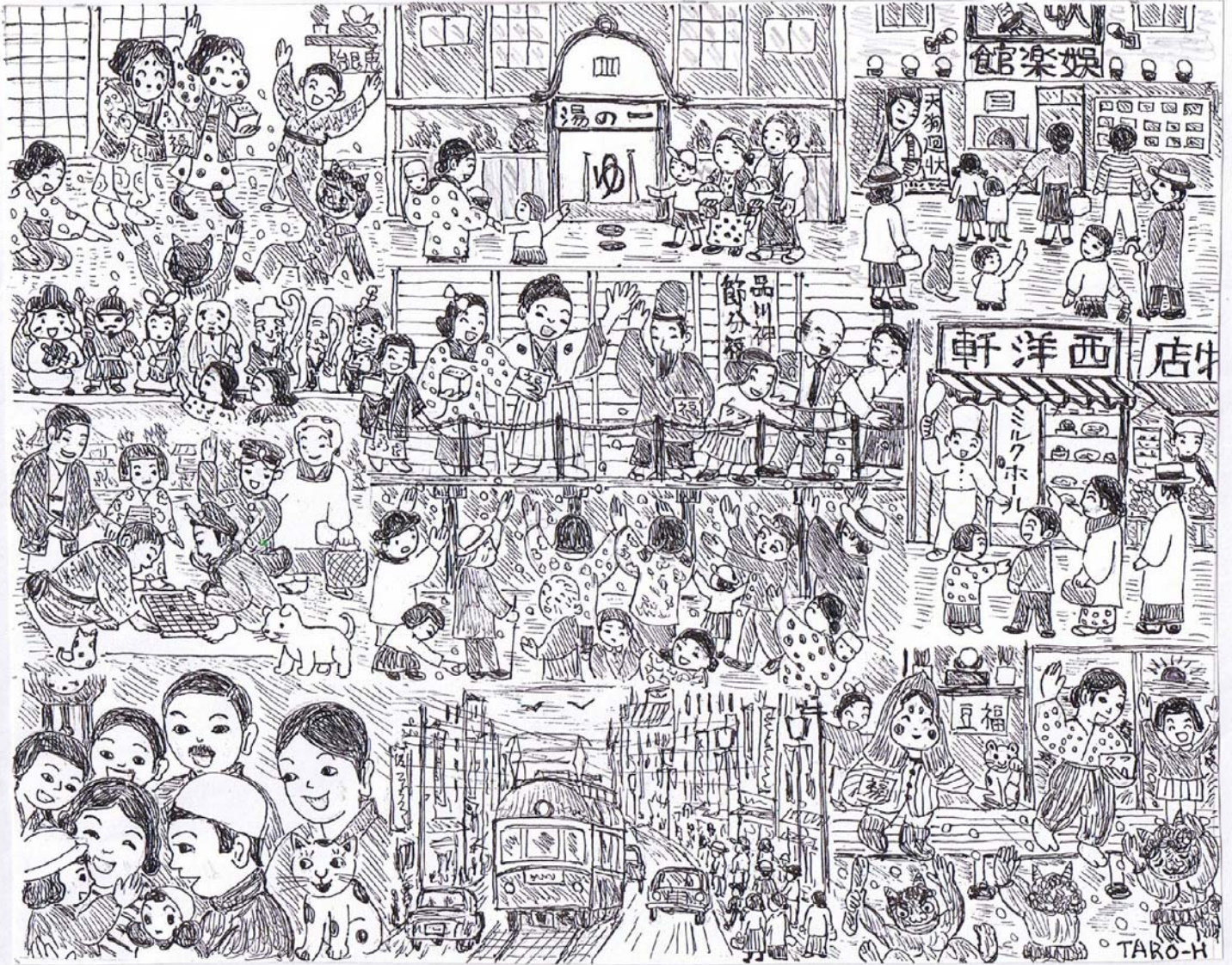
鬼は〜外

福は…ここに 있습니다

大和市民活動センター



第13号 2008年2月1日発行



この表紙のイラストは 樋口太郎さんが子ども時代を思い出して、なつかしい節分の様子を描いてくれたものです。生活に組み込まれた「節分豆まき」も人々の交流イベントだったのでしょね。

樋口さんはボランティア活動にも熱心で、老人ホームで絵手紙の指導をされています。大和市民活動センターでは樋口さんの絵手紙を展示して、ご希望の方に差し上げています。

3月実施 今年度最終回

市民活動 連続 **共育** マネージメントセミナー  
 とも いく

第8回のテーマは  
 「市民活動団体と企業・事業者の  
 縁結び Part 1」

日時: 3月5日(水) 18:30~20:30

場所: 大和市民活動センター 会議室

ゲスト: 白川 富一さん

イオン株式会社 関東カンパニー 神奈川事業部  
 大和鶴間店 副店長

イオン株が取り組んでいる「イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、サポートを必要としているボランティア団体と、「応援したい」という気持ちのお客様を結ぶ取り組みとして、また企業が地域のコミュニティの一員であることを大切にしています。ジャスコ大和鶴間店がこのキャンペーンを通して地域やNPOとどのようにつながりを作ってきたかをお話しいたできます。

# 「決算書」づくりの時間がとれない、できる人手がない、手早く仕上げる方法がわからない

そんな(な) (い)を解決するセミナーを開催しました

税理士の富岡弘文さんをゲストにお迎えし、「完全マスター 基礎からわかるNPO会計」馬場英朗・小椋淑子編著を教本に1月28日(月)18:30～大和市民活動センター会議室で開かれました。満員盛況20名余りのNPO関係者などが参加しました。現預金管理・複式簿記・貸借対照表・収支計算書など避けられない項目をわかりやすく説明してくれました。次々に出る質問に対しては、表やボードを使って具体的に教えてくれました。説明も「では、取りあえずポケットから出したお金とってください。」「仕訳は必要です。でも手持ち現金との照合は直ぐできませんね。」「これは近い内に受け取れる金額ですが、今財布には無いのです。」など和やかな雰囲気の中にも、頭の中にイメージが湧いてくる解説でした。終わりにNPO活動をする以上、その活動状況を報告する義務を感じ「アカウンタビリティ」(説明責任)

## 連続共育マネージメントセミナー

### 第7回「決算書」づくりのセミナー

を果たす手段としての「会計活用」を認識しました。さあ、習ったことを「実践に移す決算期」は目の前です。



おいでおいで。課題をいっしょに解決するんだよ。セミナーだよ。

#### 今までに実施したセミナー

- 第1回 07. 2. 7 (水) 仲間づくり・資金づくり
- 第2回 07. 3. 14 (水) 団体の会計処理
- 第3回 07. 5. 24 (木) どうしたら効果的なりーフレットができるか
- 第4回 07. 7. 20 (金) NPOと法制度
- 第5回 07. 9. 25 (火) 助成金・補助金の「申請書」の書き方
- 第6回 07. 11. 27 (火) 人が続々集まってくるイベント

企画のヘソはここにある

\* 資料は大和市民活動センターにあります



**FMやまと(77.7MHz)**  
**毎週火曜日9:05 にスイッチON**  
**大和市民活動センターだより**  
**「やまとっこ☆みつた」**

1月8日(火)

#### ～趣味の時間を地域交流に生かそう～

＜ワーカーズ・コレクティブ カルチャーつるま＞

「カルチャーつるま」は15年前に発足し、開催教室は現在25を数える。受講料を安く設定し、技術だけでなく地域での人の交流を主目的にしている団体だ。気軽にふれあい、近隣の方とも顔なじみになっている。「ちょっと指導」に気安く来てくれる講師もいる。「主婦は家でも外でも忙しい。好きなことに1時間でも没頭する。忙しい人ほど持ってほしい時間です」と同会会計の高橋則子(たかはしりこ)さん。現在の人気講座は「和服リフォーム」。

連絡先 TEL 046-262-7631 「カルチャーつるま」まで。

1月15日(火)

#### ～突然降りかかる災害 目に見えない障害～

＜NPO法人 脳外傷友の会ナナ＞

働きたくても働く場所がない、しかし、障害者手帳もとれないという、大変苦しい状況に置かれている、「高次脳機能障害」の方たちは全国に30万人いるといわれている。それは事故など脳への強い衝撃、脳卒中などによる後遺障害によって、数分前のことを忘れてしまう、注意力や感情のコントロール低下などに悩まされる障害だ。「ナナ」は障害者自立をめざし、家族会が立ち上げた支援組織。理事の三輪和子(みわかずこ)さんは、「この障害を理解していただき、働く場の提供をお願いします。大部分は、少しのサポートと障害への理解があれば働ける人たちなのです。そして日々安全運転をこころがけ、事故を起こさないように気をつけましょう。」と訴える。障害のある人も生きやすい社会は私たちの暮らしを守ることにつながる。

講演会開催

高次脳機能障害 講演&シンポジウム in 大和

平成20年2月10日(日) 12:30～ 大和市勤労福祉会館

お申し込み先 TEL 046-249-2020

(神奈川リハビリテーション病院内)

1月22日(火)

#### ～お風呂介助も大仕事も 喜ばれるのが生きがい～

＜パパボラやまと＞

男性だけのボランティア団体(パパボラやまと)。全員が60代。8人のメンバーで、平成18年度の活動件数は259件ののぼる。全員が福祉に関する専門的な資格を取得しており、入浴介助、通学・通所の介助、住宅にスロープをつけるなどの住宅改善工事まで幅広い活動を行っている。

#### これからの放送予定

- 2月 5日(火) なないろ畑農場
- 2月12日(火) ICL(インターナショナル・コミュニケーション・リンクス)
- 2月19日(火) 大和泉の森作業所

「住宅の改善では、小さな工夫で、今までできなかったことが出来るようになることがありますし、入浴介助では、ゆっくり温泉につかったのは何年ぶりだろう、と感謝してくれる人がいました。」と、会長の菊池和久(きくちかずひさ)さんは活動事例を嬉しそうに語る。一方、「やってほしくないことを、頼む人の気持ちを理解して活動するようにしています」という言葉が、福祉に対する深い理解を感じさせた。「何かしたいけれど、ひとりでは不安」とお考えの方、一緒に活動してみたい、と参加を呼びかけている。

連絡先 菊池和久 TEL 046-274-8572

1月29日(火)

#### ～人と人をつなぐ「通貨クラ」～

＜地域通貨グループ クラママ＞

「みなさん、リラックスして『クラママ』をアピールしてください」女性4人のおしゃべりでにぎやかに放送が始まりました。設立のきっかけは? 「きっかけは、中学校の制服など、子どもの服をやりとりするところから始まりました。たまたま地域通貨が流行っていたんです」と、山口久子(やまぐちひさこ)さん。ここで使用する地域通貨を「クラ」という。物をゆずってもらふなどすると自分の通帳にマイナス〇〇クラ、提供元の人の通帳にプラス〇〇クラと記帳する。してもらふばかりだとマイナスがどんどん増える、そして自分にできることがあったら、他の人に同じようにクラで提供するという仕組み。申し訳ない気持ちは不要という部分が面白い。クラで頼むことで生まれる気安さから始まり広がった仲間の関係から、ただいま登録されているメンバーは約250人。どんな活動をしていますかとの質問に、「その時々集まる人が違うんです。やる内容によって、それをできる人たちが集まるのが面白い」と、グループ代表の小宮山さん。災害支援に送る物資を集めたり、地域のお医者さんを分かりやすく紹介する冊子を作ったりなど、小さな活動から、大きな活動につなげている。「母は強し」「ロコミにまさる宣伝はない」というのはどちらも本当のようだ。クラママ連絡先は大和市民活動センターでお聞きください。

## 子どもがあそび、育つ環境に実はいま、 かなりの「権利侵害」があるのではないか。その2

～かながわコミュニティカレッジ\*子ども支援者養成講座～

報告:この「講座」に参加した担当/小杉

例えば、土日週明けの月曜日朝、幼稚園・保育園に来るこの頃の子どもたちは「荒れている」と保育者から聞く。「あーっ、うおーっ」とうなりのような声をまず思い切りあげて、少し落ち着くというのが月曜日です。子どもは土日でいっぱいいっぱいのストレスを抱えて登園してくる。これはいったいどういうことか。

いまの子どものさまざまな問題、状況を「母子密着」というキーワードでひも解いていくと、現代日本の子育ての課題が見えてくることがあると前回記しました。

管理監視の枠からなかなか離れることが難しく、自分からあそびを選び、つくり、とことん友達とあそびきることができない状況。

そのことを解決する糸口を反面的にシャープにわからせてくれたのが今回の「子ども支援者養成講座」第13回目('07.11.15実施)の「子どもと遊びⅢ 放課後児童クラブの現場から」でした。講師は「夢学童保育」(横浜市井土ヶ谷)指導員の八木晶子さん。



子どもがいて、お年寄りがいるあたりまえの暮らしの中に思いやりの気持ちが芽ばえ、育ちます。

子どもがやさしさのあるまちで暮らせる幸せ。

### 放課後児童クラブの可能性

小学校の授業が終わると、鍵っ子の子どもたちは学童クラブのスペースに「ただいま」と言ってやってくる。ここは第2の家庭、「昼間の兄弟」だという。

ここの合言葉は「貧乏！」。あそび道具がない。買う金もない。だから道に落ちているものをなんでも拾ってくる。冷蔵庫、鍋、釜、椅子…。それを実に巧みにあそび道具に変身させてしまう。桜の枝にテープを巻き、バットに。平たい網をラケットに。子どもたちは不思議なことに「バット買って、ラケットほしい」と決してねだらない。お金がないことを知っているから？ それだけではなさそうだ。

ここには「母親」の目がなくて、あるのは自分からあそびをつくり出す時間と空間があり、仲間がいる。これが途方もない「あそび」をつくりだしてしまう。高速道路から落ちてくる雨粒を口でキャッチするあそび、泥ダンゴをひたすらつくり、光らせ、落として固さを競う。記録係、給水ポイント役までつくって。近くにある階段をその日のうちに100往復する。1日で連続1000回の馬飛びあそびもあった。これらのあそびをつくる仲間が6年間つなげていく。この学童において、自分の力で楽しいことを見つけることを学んだと、ここを巣立った現高校生が先日話してくれたとか。

### 私たち、おとなは…

子どもは「放牧」されるなかで自らが成長していく。これは汐見稔幸(白梅学園大学学長)さんがよく遣われる言葉ですが、子どもをまわりがやいのやいのと「育てる」ということではなく、子ども自らの「育ち」の力、権利を保障する仕組みや環境こそ、社会や地域がつくる責務があるのだと思います。(完)

<補足>

・「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は国連が1989年に定めた条約。日本は'90年9月21日に署名、'94年に批准。158番目の批准国となった。今年で批准して14年目になります。

・「大和市自治基本条例」の(子ども)第11条に「市は、子どもが健やかに育つ環境をつくる責務を有する」とあります。

・'07.08.23~12.20 毎木曜日実施された「講座」全18回の記録は毎回の講座ごとに講師プロフィール、レジュメ、メモ、写真記録、関連資料をファイルし、大和市民活動センターに保管してあります。

## 恒例 楽しい集まり どなたでも

### 今年初の「おしゃべりラウンジ・パルス」

～あなたの声 お聞かせ下さい～ は

1月23日(水)に開催しました。

参加費500円で夕方5時からスタート

7名の参加者で、軽食をいただきながらまずは自己紹介。「大和市民活動センターに新たな人を呼ぶには何が必要か」をテーマにおしゃべりが始まりました。「まだまだ知名度が低い」、「誰でもが気軽に出入りできる」、「お茶やコーヒーが飲める”ほっとステーション”的なもの」との意見が出ました。

”ほっとステーション”で団体どうしの交流が生まれ、にぎやかに人が集まるそんな大和市民活動センターが理想である。また、健康である事は人間にとって大切な事なので、健康セミナーを開催してほしい。などの楽しいなかにも活発な意見が語られました。(S.S.)



お茶を飲みながら  
ちっとワイワイ  
ガヤガヤ  
おしゃべりしたい

ひとりの意見を  
みんなで聞いて  
みんなの意見が  
ヒントになって

ぶつぶつ言っているだけ  
ではダメね  
市民活動を盛り上  
げる場にしたいいね

## 街でみつけたよ!

”安心して暮らせる…”看板

市役所敷地の片隅に市民の皆様が安心して暮らせるよう「路上強盗」「ひったくり」「空き巣」に気をつけていただくために看板が設置されています。畳1畳ほどの大きさがあり、横断歩道の青信号を待っているとふっと目に留まります。

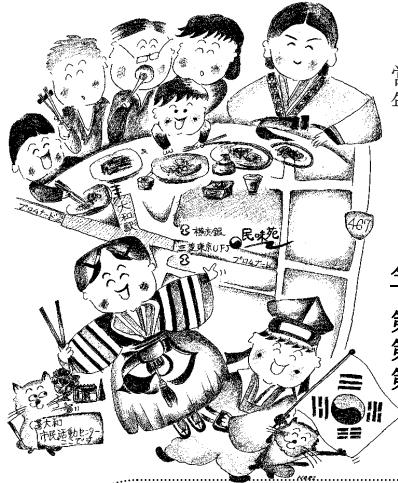
「安心して暮らせる街」それは私たちにとって大切なことです。安心して暮らせる街をつくるためみんなで声をかけ合える、そんな地域をつくっていききたいですね。

ところで、看板には警察官と女性が会話をしている様子が描かれています。この警察官のホッペに渦を描いてみると、昔懐かしい「忍者ハットリくん」の顔に見えてしまうのは私だけでしょうか。不謹慎でごめんなさい(T.M.)



## おいしく食べて国際交流 その4 ～韓国の家庭料理～

大和市内には外国料理のお店がたくさんあります。“食は文化”との位置づけで見れば、まずは食べてその国を知りましょう、ということで身近にある外国料理店を訪ねて国際交流を実践しています。今回は大和駅前前の韓国料理「民味苑」に行ってきました。韓国釜山出身の奥さんの家庭の味を提供。ご主人の話では奥さんの名前金民知(キムミンジ)さんの味という意味で店の名前を「民味苑(ミンミエン)」としたということです。自慢は焼肉の臭いが服につかない遠赤外線無煙ロースターを設置したことだそうです



「民味苑」お店データ

TEL: 046-260-7575

営業時間: 月～土 ランチ 11:30～14:00  
年中無休 デイナー 17:00～24:00  
日曜・祭日 16:00～23:00

\* (財)大和市民国際化協会 機関誌「Pal」を持参すると飲食代5%割引です。(2月中の夜のみ)

### 今まで国際交流したところ

- 第1回 シンガポールの屋台料理【Makan Makan】
- 第2回 ペルー料理 「NAZCA」
- 第3回 タイ料理 「イーサン食堂」

### 参加した人の感想は

- ・マッコリ(韓国のお酒)がおいしかった。お酒に弱い私にも楽しめました。
- ・歴史の関わりの深い韓国、文化源流韓国と思いつつ席をとりました。実は、おいしい料理と楽しい酒で主旨も忘れての交流でした。
- ・石焼ビビンバはお勧めです。チャルモゴッスムニタ

### ハングルを話してみよう

こんにちは	アンニョンハセヨ
ごめんなさい	ミヤンヨネ
任せなさい	マツクセーヨ
ありがとうございます	カムサハムニダ
おいしい	マシッソヨ
ご馳走様でした	チャルモゴッスムニタ

### 大和市民活動センター “ある日ある時”

1月9日(水)曇りのち晴れ

イチョウは今...

やわらかい新緑の葉がだんだんと深い緑色になって、夏には強い陽射しを受け、しっかり木陰をつくってくれたセンターのイチョウの木。濃い黄色の葉が次から次へと舞い落ちて地面の色がわからないくらいになり、箒を持つ腕が筋肉痛になったのもなつかしく思われます。今はすっかり葉を落とし、しばらくの休息の時を過ごし、春を待つ準備をしています。ずっしりと重い、数え切れない葉っぱたちはケヤキの葉といっしょに有機栽培の「なないろ畑」に運ばれて、堆肥となって次の役割りを果たすためにしばしの眠りに入りました。葉っぱを落としたイチョウの樹姿は円錐形に近く、剪定の際にしっかり見守っていただいた結果と、その姿に誇りを感じます。それに引き換え、センター脇の歩道に植えられたコブシの木は、数年前まではたくさん花で存在感を示していたのに、昨年無残にも過剰に伐られ、わずか数個の花しか咲かなかったことを思うと胸が痛くなります。季節が巡って春にはまたやわらかい緑の葉が目と心に潤いをもたらしてくれることでしょう。人間の一生の何十倍もの長さを生きるイチョウやコブシ、ケヤキの目には、我々の活動がどのように見えているのか、ちょっと聞いてみたいです。(M. I)

### 熱血編集後記



ホーホケキョ♪  
練習中



“広報紙の編集”とか何とか言ってみんなが持ち寄った編集なしの話で盛り上がる。小杉さんによる毎回の「ミニ講座」も面白く、そのネタを知ったかぶりして他の集まりでは酔いながら思い出している喋っている。正確に知りたい方は直接ご参加下さい。(望月則男)

「大和市民活動センター。ここにあり」をこの「あの手 この手」がどれだけ伝えられたか。もっと広く、もっときめ細かく届ける知恵を出し合いたい。次号は今年度のファイナル号になります。熱いメッセージをお届けします。(小杉皓男)

カイロを3コ貼り、靴下を2枚履きオーバーを着てもまだ寒くて、マフラーを買ってしまいました。動きにくいです。(山田裕子)

国内外において問題山積でスタートした新年。積年の異常気象、ヒトのエゴが自然界から裁かれています。”自然界のヒトとして”を行為の判断基準にして生きたいと思います。(浅見正明)

厳しい寒さが続いています。大好きな酒粕の甘酒で心と体を温めながら風邪をひかずに冬を乗り切りたいものです。(中山みゆき)

\* 今号の用紙は梅の花が咲く季節、“梅にウグイス”と単純にうぐいす色を選びました。

「あの手 この手」第13号 発行日・2008年2月1日  
大和市民活動センター <開館・月～土 9:00～18:00>  
〒242-0021大和市中中央1-5-1  
TEL: 046-260-2586 FAX: 046-205-5788

発行・大和市民活動センター 協働の拠点運営委員会

e-mail: yamato@ar.wakwak.com  
URL: http://park23.wakwak.com/~youkoso/